

V. 特記事項

1. 東邦ウィーンアカデミー

(1) 本学の教育方針「国際化の推進」を担う人材育成プログラム「ウィーンアカデミー」

本学のカリキュラム中で特筆すべき科目の一つに「ウィーンアカデミー」がある。この科目は、オーストリアのウィーンに所在する本学の海外研修施設(TOHO ウィーンキャンパス「東邦ウィーンアカデミー」)において学修するプログラムである。

本学が目指す音楽教育は、全ての学生が自律した一つの音楽人として活躍できる「One to One の教育」である。その実現のために学生個人々の資質やレベルに合わせ具体的な目標を設定し、その達成に向けてきめ細かく指導している。この研修を通して国際感覚を身に付け、世界に通用する演奏家、教育者の育成を目指している。グローバル人材の育成が叫ばれる現在、本学ではいち早くその必要性を認識し、平成3(1991)年から音楽大学では初めてウィーンに研修施設を設置し、学生達は意欲的に研鑽を積んできた。全ての学生がグローバルスタンダードを意識し、演奏活動や教育活動を行うことが複雑な現代社会の様々な課題の解決に寄与するものであると考えている。実際この研修でウィーンの伝統や様式や技術を受け継いだ一流の演奏家の音楽に触れた学生たちは、国際感覚を持った演奏者、教育者として様々な地域、領域で活躍している。

(2) 研修内容

学部においては、3年次に全学生必修として15日間のウィーン研修(授業科目名「ウィーンアカデミー(4単位)」)が設定されている。この研修は学生を15名程度のグループに分け、年間を通じて実施されている。また、大学院は、1年次に16日間程度の研修が必修(授業科目名「ウィーンアカデミー特別研究(4単位)」)となっている。

また、平成26(2014)年度に新設された演奏家コース、Konzertfach(演奏専攻)では、 Semester毎に10日間、1年間に2回、4年間で計8回の研修(授業科目名「ウィーンアカデミープロフェシオネルIA/B~IVA/B(各3単位×8回=4年間で24単位)」)がプログラムされている。選抜されたメンバーではなく、学部生、院生全員が必修として海外でのレッスン・授業を受けるというシステムは、本学独自の画期的なカリキュラムである。

研修で指導に当たる教授陣は、ウィーン国立音楽大学の教授やウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の世界的な演奏家である。学生一人ひとりが1対1でレッスンを直接受け、さらに朗読法や楽曲分析を初め、世界最高のオペラハウスである「シュターツオパー(国立歌劇場)」等でのオペラ鑑賞、美術史美術館等での鑑賞プログラムなど多彩な観点から西洋芸術を学べるカリキュラムで構成されている。

これらのプログラムを体験することにより、学生達の知識、実技・技能の向上が図られることはもちろん、多様な音楽を受容する能力が培われ、そして表現する感性により一層磨きがかかる。その成果として、学生たちは本学の建学の精神である情操豊かな人格の形成を体現し社会に有用な人材になっている。